

投稿

を励行することを前提と直しが求められているよ
流れてくるニュースに不安を掻き立てられていま
安を掻き立てられていま
ることもありません。
災害なのです。お互いに
自覚を持って行動し、自
覚のできない人には手を
差し伸べて、一日も早く、
医療重視の行き過ぎで、
経済生活を犠牲にするこ
となく、経済重視の行き
過ぎで、命を危険にさら
す医療の逼迫状態をもた
らすことなく、バランス
のとれた「ばんだがうま
りずま」の豊かな暮らし
を取り戻しましょう。

この状態を、コロナ感
染対策指定病院である県
立宮古病院が昼夜を問わ
ずフル稼働し、その検査
サポートを徳洲会病院や
数力所の診療所が担って
います。現在、コロナ感
染に対する宮古島の医療
体制はコロナ禍当初に比
べ格段の改善が図られ、
感染対応力（医療許容量）
も向上してきていますが、
医療従事者の人的資源が
増えているわけではない
ため、クラスター（感染
者集団）が発生した際に
はやはり医療許容量は逼
迫し、島の安全が脅かさ
れるというシナリオが頭
をよぎることは、コロナ
禍当初となら変わるこ
とはありません。

ウイズコロナ時代の働き盛りの 島民の皆さんに協力を求めます (下)

宮古地区医師会 竹井太、奥平忠寛

しかし、残念なことに
その努力にも関わらず、「入
れられない、拡げない、
くは皆さん自らがウイル
スが近づくに感染されて
います。また、無症候感
染もあるがゆえに、気づ
かずに拡げていることも
自覚してください。必要
ナに感染されることなく、
感染させることなく、ご
自身の健康も家庭も守り、
島の経済を守り続けてい
ただきたい思います。た
だだ、あなたがた

このような状況下で、
島の経済活性を停滞させ
ることなく島民の生活を
守るために進めなければ
ならず、感染拡大防止策
を拡大しています。この
えない未知のコロナウイ
ましよう。

職場内、家庭内への感染
また当初のことを思い
感染させあわない努力を、
自身も守り、島の経済を
守り続けてい
ただきたい
思います。た
だだ、あなたがた